

ゼミノート #6

Stacks & Descent Theory

七条彰紀

2018 年 12 月 12 日

目次

1	Definition : Stack / Prestack	1
2	Example : Stack	2
3	Proposition : Stack	4
4	Descent Theory on fpqc Site	7
4.1	Motivation	7
4.2	Definition	7
4.3	Criterion for fpqc Stacks	7

以下, 特に改めて指定がなければ $\mathbf{C} :: \text{site}, \pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C} :: \text{fibered category}$ を考える.

1 Definition : Stack / Prestack

定義 1.1 (Prestack, Stack)

関手 $\epsilon_U: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$ を用いて以下のように定義する.

- (i) 任意の $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$ について $\epsilon_U :: \text{fully faithful}$ である時, fibered category $\mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C}$ は prestack である, という.
- (ii) 任意の $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$ について $\epsilon_U :: \text{equivalence}$ である時, fibered category $\mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C}$ は stack である, という.

(pre)stacks の間の射は, fibered category としての射である.

注意 1.2

prestack の定義は以下のように言い換えられる: 任意の $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{\phi_i: U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$ をとる. さらに $\xi, \eta \in \mathcal{F}(U)$ をとり, ϵ_U による像

$$(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}), (\{\eta_i\}, \{\tau_{ij}\}) \in \mathcal{F}(\mathcal{U})$$

を考える. $\{\alpha_i\}: \epsilon_U(\xi) \rightarrow \epsilon_U(\eta)$ について, $\mathcal{F}(U)$ の射 $\alpha: \xi \rightarrow \eta$ が一意に存在し, $\alpha_i = (\phi_i)^* \alpha (\iff \{\alpha_i\} = \epsilon_U(\alpha))$ となる.

標語的に言えば, prestack は「貼り合わせられる射を持つ psuedo-functor」となる. 同型射の貼り合わせは同型射であるから, prestack は「貼り合わせが (存在すれば) 一意な対象を持つ psuedo-functor」である.

注意 1.3

このノートでは, fiber が条件を満たす fibered category として (pre)stack は定義されている (fiber を用いずに (pre)stack を定義することも出来るが, 今回は採用しなかった). なので形式上, (pre)stack は fibered category を経由せず, 特別な psuedo-functor として定義できる. しかし実際にそのように定義されることは少ない.

では psuedo-functor として定義しない積極的な理由はと言うと, 実用上, 元の fibered category にも言及する機会が多いからであると思われる. fiber だけでなく元の fibered category に言及する理由については, このセミナーのノート session 4.5 ^{†1}, 注意 2.8 を参考にして欲しい.

定義 1.4 (Sub(pre)stack)

stack :: $\pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C}$ の sub(pre)stack とは, \mathcal{F} の部分圏 \mathcal{G} であって, π と包含関手の合成 $\mathcal{G} \hookrightarrow \mathcal{F} \xrightarrow{\pi} \mathbf{C}$ が fibration であり, さらにその fiber が (pre)stack であるもの.

2 Example : Stack

命題 2.1 ([1] Prop4.9)

- (i) separated presheaf of sets is a prestack.
- (ii) sheaf of sets is a stack.

(証明). $\mathbf{C} :: \text{site}, \mathcal{F}: \mathbf{C}^{op} \rightarrow \mathbf{Sets} :: \text{presheaf}$ とする. $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$ を任意に取る.

今, 圏 $\mathcal{F}(U), \mathcal{F}(\mathcal{U})$ は集合 (離散圏) である. なので関手 $\epsilon_U: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$ は写像である. さらに射 σ_{ij} も恒等射しかないから, $\mathcal{F}(\mathcal{U})$ の対象は, 任意の i, j について $\xi_i|_{U_{ij}} = \xi_j|_{U_{ij}}$ を満たす $\xi_i \in \mathcal{F}(U_i)$ の族 $\{\xi_i\}_i$ であると考えて良い. このセミナーノートの session3 の記号を用いれば, $\mathcal{F}(\mathcal{U}) = H^0(\mathcal{U}, \mathcal{F})$ ということになる.

二つのデータ $\{\xi_i\}, \{\eta_i\}$ の間の射もやはり恒等射しかないから, 「関手 ϵ_U が fully faithful である」という仮定は「写像 ϵ_U が単射である」と言い換えられる. これはすなわち, \mathcal{F} が separated presheaf であるということである.

「関手 ϵ_U が essentially surjective である」という仮定は「写像 ϵ_U が全射である」と言い換えられるから. ϵ_U が equivalence であることは $\mathcal{F}(\mathcal{U}) = H^0(\mathcal{U}, \mathcal{F})$ と $\mathcal{F}(U)$ の間に全単射が存在するということである. これはすなわち, $\mathcal{F}(U)$ が sheaf であるということである. ■

注意 2.2

この命題で分かるとおり, prestack は presheaf の抽象化ではなく, separated presheaf の抽象化である. そうすると, 我々は psuedo-functor $\mathbf{B}^{op} \rightarrow \mathbf{Cat}$ を prestack と呼び, 今 prestack と呼んでいるものは separated

^{†1} URL : https://github.com/ShitijyouA/MathNotes/blob/master/AlgebraicStacks/session4_5_FiberedCategoriesContinued.pdf

prestack と呼ぶべきなのかも知れない。我々がそうしないのは、後に定義される “separated stack” との混乱を避けるためである。

以下の二つの例は後にセミナーでも証明を扱う。

例 2.3

$X \in \mathbf{C}$ に対し、圏 \mathbf{Shv}/X を以下のように定める。

Objects.

X への射を持つような \mathbf{C} の対象 U と、 U 上の sheaf \mathcal{U} の組。

Arrows.

射 $(U, \mathcal{U}) \rightarrow (V, \mathcal{V})$ は、 \mathbf{C} の射 $f: U \rightarrow V$ と、morphism of sheaves on V $f^\#: \mathcal{V} \rightarrow f_*\mathcal{U}$ の組。

この時、fibered category $\mathbf{Shv}/X \rightarrow \mathbf{C}/X; (U, \mathcal{U}) \mapsto U$ は stack である。この例で考える sheaf を quasi-coherent sheaf に制限して得られる fibered category $\mathbf{QCoh}/X \rightarrow \mathbf{C}/X$ も stack である。この二つの例については、このセミナーでも後に証明を扱う。

例 2.4

$X \in \mathbf{Sch}$ に対し、圏 \mathbf{QCoh}/X を以下のように定める。

Objects.

$\mathrm{Fpqc}(X)^{\dagger 2}$ の対象 U と、 U 上の sheaf (on fpqc topology) \mathcal{U} の組。

Arrows.

射 $(U, \mathcal{U}) \rightarrow (V, \mathcal{V})$ は、 \mathbf{C} の射 $f: U \rightarrow V$ と、morphism of sheaves on V $f^\#: \mathcal{V} \rightarrow f_*\mathcal{U}$ の組。

この時、fibered category $\mathbf{QCoh}/X \rightarrow \mathbf{C}/X; (U, \mathcal{U}) \mapsto U$ は stack である。

例 2.5 ([2] 4.4.1)

以下で定まる fibered category は stack である。

$$\begin{aligned} \left\{ \begin{array}{l} \text{pair of scheme over } S :: Y \\ \text{and closed imm. } W \hookrightarrow Y \end{array} \right\} &\rightarrow \mathrm{Fppf}(S) \\ (Y, W \hookrightarrow Y) &\mapsto Y \end{aligned}$$

例 2.6 ([2] 4.4.4)

以下で定まる fibered category は stack である。

$$\begin{aligned} \left\{ \begin{array}{l} \text{pair of scheme over } S :: Y \\ \text{and open imm. } W \hookrightarrow Y \end{array} \right\} &\rightarrow \mathrm{Fppf}(S) \\ (Y, W \hookrightarrow Y) &\mapsto Y \end{aligned}$$

以下の二つの例は後に一般化される。

例 2.7 ([1] §4.3.1)

^{†2} 圏 \mathbf{Sch}/X に fpqc topology を備えたもの。

arrow category $:: \mathbf{Sch}^\rightarrow$ の対象を affine morphism に制限したものを圏 **Aff** とする．以下で定まる fibered category は stack である．

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{Aff} & \rightarrow & \mathbf{Fppf}(\mathrm{Spec} \mathbb{Z}) \\ [X \rightarrow Y] & \mapsto & Y \end{array}$$

例 2.8 ([2] 4.4.15)

quasi-compact open imbedding の後に affine morphism を合成した射のことを quasi-affine morphism という．arrow category $:: \mathbf{Sch}^\rightarrow$ の対象を quasi-affine morphism に制限したものを **QAff** とする．以下で定まる fibered category は stack である．

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{QAff} & \rightarrow & \mathbf{Fppf}(\mathrm{Spec} \mathbb{Z}) \\ [X \rightarrow Y] & \mapsto & Y \end{array}$$

3 Proposition : Stack

命題 3.1 ([2] Prop4.12)

二つの equivalent な fibered category があり，かつ一方が stack ならば，もう一方も stack である．

(証明). $\mathcal{F}, \mathcal{G} ::$ fibered categories over \mathbf{C} とし， $F: \mathcal{F} \rightarrow \mathcal{G} ::$ morphism of fibered categories とする．この時 cover of $U \in \mathbf{C} :: \mathcal{U} = \{U_i \rightarrow U\}$ について $F_{\mathcal{U}}$ を定義する．

$$\begin{array}{lll} F_{\mathcal{U}}: & \mathcal{F}(\mathcal{U}) & \rightarrow \mathcal{G}(\mathcal{U}) \\ \text{Objects:} & (\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}) & \mapsto (\{F\xi_i\}, \{F\sigma_{ij}\}) \\ \text{Arrows:} & \{\alpha_i\} & \mapsto \{F\alpha_i\} \end{array}$$

更に二つの射 $F, G: \mathcal{F} \rightarrow \mathcal{G}$ とその間の base-preserving natural transformation $:: \rho: F \rightarrow G$ に対し， $\rho_{\mathcal{U}}: F_{\mathcal{U}} \rightarrow G_{\mathcal{U}}$ を次のように定義する．

$$(\rho_{\mathcal{U}})_{(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\})} = \{\rho_{\xi_i}\}.$$

以上から， F が equivalence ならば $F_{\mathcal{U}}$ も equivalence である．したがって以下の commutative diagram of weak 2-category ^{†3} が得られる．

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{F}(U) & \xrightarrow{\epsilon_{\mathcal{U}}} & \mathcal{F}(\mathcal{U}) \\ F \downarrow & & \downarrow F_{\mathcal{U}} \\ \mathcal{G}(U) & \xrightarrow{\epsilon_{\mathcal{U}}} & \mathcal{G}(\mathcal{U}) \end{array}$$

この可換図式から，主張が得られる． ■

命題 3.2 ([2] Exc 4.I)

$\mathcal{F}, \mathcal{F}' ::$ stack on \mathbf{C} , $f: \mathcal{F} \rightarrow \mathcal{F}' ::$ morphism of stacks とする． $f ::$ isomorphism は以下の 2 条件が成立することと同値．

(a) 任意の $X \in \mathbf{C}$ について，fiber の間の射 $f_X: \mathcal{F}(X) \rightarrow \mathcal{F}'(X)$ は fully-faithful.

^{†3} 射の合成の間に natural isomorphism が存在するという意味で可換．

(b) 任意の $X \in \mathbf{C}$ と $x \in \mathcal{F}'(X)$ について, covering of $X :: \{\phi_i: X_i \rightarrow X\} \in \text{Cov}(X)$ が存在し, 全ての x の pullback $:: \phi_i^* x \in \mathcal{F}'(X_i)$ が $\mathcal{F}(X_i)$ の essential image に属す.

(証明). (TODO) ■

補題 3.3

site $:: \mathbf{C}$ を, 空集合の cover として空集合を持つ ($\emptyset \in \text{Cov}(\emptyset)$) ものとする. $\pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C} :: \text{stack}$ について, 以下の圏同値が成立する.

$$\mathcal{F}(\emptyset) \simeq \mathbf{1}.$$

特に, $\mathcal{F}(\emptyset)$ の対象は全て同型であり, 射は同型射しかない.

(証明). category of descent data $:: \mathcal{F}(\mathcal{U})$ の対象を考える. これは \mathcal{U} で添字付けられた対象の族の二つ組である. なので $\mathcal{U} = \emptyset$ について, $\mathcal{F}(\emptyset)$ の対象は (\emptyset, \emptyset) しかない. 射も \mathcal{U} で添字付けられた族であるから, 非自明な射は存在しない. ■

この補題の仮定は奇妙に見えるかも知れないが, 以下の通り, このように仮定しても問題はないし, 我々が扱う殆どの site はこの仮定を満たす.

主張 3.4

圏 \mathbf{C} の任意の対象 $U \in \mathbf{C}$ について, 命題「 $\emptyset \in \text{Cov}(U)$ 」は Grothendieck topology の公理 (定義) と独立である. すなわち, $\emptyset \in \text{Cov}(U)$ としなくても矛盾は生じない.

(証明). 命題「 $\emptyset \in \text{Cov}(U)$ 」を P と書く. Grothendieck topology の定義を見直そう. cover of $\emptyset :: \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$ が満たすべき条件を記号で書き下す.

- (a) $\forall [V \rightarrow U] \in \mathbf{C}/U, [\forall [U' \rightarrow U] \in \mathcal{U}, \exists U' \times_U V] \implies \{U' \times_U V \rightarrow V \mid [U' \rightarrow U] \in \mathcal{U}\} \in \text{Cov}(V).$
- (b) $\forall \mathcal{V} := \{\mathcal{U}'_{U'} \mid \mathcal{U}'_{U'} \in \text{Cov}(U')\}_{U' \in \mathcal{U}}, \{U'' \rightarrow U' \rightarrow U \mid [U' \rightarrow U] \in \mathcal{U}, [U'' \rightarrow U'] \in \mathcal{U}'_{U'}\} \in \text{Cov}(U).$

クラス X と述語 F について “ $\forall x \in X, F(x)$ ” という文は “ $\forall x, [x \in X \implies F(x)]$ ” の省略形である. したがって, $X = \emptyset$ であるとき, “ $\forall x \in X, F(x)$ ” という文は任意の F について真. また, $\{f(x) \mid x \in \emptyset\} = \emptyset$.

なので, 以上の文を $\mathcal{U} = \emptyset$ の場合に考えると (すなわち P を仮定すると), いずれも P と同値に成る. よって $P \implies P$ ということになる. 一方, 否定 $\neg P$ を仮定しても矛盾が生じないことは明らか. ■

例 3.5

圏 \mathbf{C} を \mathbf{Sch} の部分圏や \mathbf{Sch}/S ($S :: \text{scheme}$) とする. morphism of schemes のクラス $\mathcal{P} \subset \text{Arr}(\mathbf{C})$ をとり, 以下のように \mathbf{C} 上の Cov を定めたとする:

$$\begin{aligned} \text{Cov}(U) = & \{\mathcal{U} \mid \mathcal{U} :: \text{jointly surjective family and } \forall \phi \in \mathcal{U}, \phi \in \mathcal{P}\} \\ = & \left\{ \mathcal{U} \left| \bigsqcup_{U' \in \mathcal{U}} U' \rightarrow U :: \text{surjective and } \forall \phi, [\phi \in \mathcal{U} \implies \phi \in \mathcal{P}] \right. \right\}. \end{aligned}$$

この時, $\bigsqcup_{U' \in \emptyset} U' = \emptyset$ なので $\emptyset \in \text{Cov}(\emptyset)$.

このセミナーで定義した Zariski site, etale site, ... などとは全てこの主張のように定義されている.

補題 3.6

圏 \mathbf{C} を \mathbf{Sch} の部分圏や \mathbf{Sch}/S ($S :: \text{scheme}$) とする. $U \in \mathbf{C}, \{U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$ をとり, $V = \bigsqcup_i U_i$ と

置く.

$\{U_i \rightarrow V\} \in \text{Cov}(V)$ と仮定する^{†4}と $\pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C} :: \text{stack}$ について, 圏同値 (TODO: strict 2-equivalence? ここは ϵ と圏同型の合成)

$$\mathcal{F}\left(\bigsqcup_i U_i\right) \simeq \prod_i \mathcal{F}(U_i)$$

が成立する.

(証明). 瑣末なことでは有るが: $\{U_i \rightarrow V\}$ の添字について, $i \neq j$ ならば $U_i \neq U_j$ である, と仮定して一般性を失わない.

仮定の状況では, injection map (coprojection) $:: U_i \rightarrow V$ についての fiber product は次のように成る.

$$U_{ij} = U_i \times_V U_j = \begin{cases} U_{ii}(\cong U_i) & (U_i = U_j) \\ \emptyset & (U_i \neq U_j). \end{cases}$$

そこで $\mathcal{U} = \{\text{inj}_i: U_i \rightarrow V\}(\in \text{Cov}(V))$ と置くと, $\xi \in \mathcal{F}(V)$ の $\epsilon_{\mathcal{U}}: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$ による像は

$$\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) = (\{(\text{inj}_i)^*\xi\}_i, \{\text{id}_{U_{ij}}\}_{i,j})$$

となる.

$i \neq j$ の時, σ_{ij} は自己同型であるから id_{\emptyset} である. さらに $i = j$ の時は, $(\text{pr}_i)^*(\text{inj}_i)^*\xi$ と $(\text{pr}_j)^*(\text{inj}_j)^*\xi$ が完全に等しいので, $\sigma_{ij} = \text{id}_{(\text{inj}_i)^*\xi}$. また, 射 $\{\alpha_i\}$ に課された条件は, 各 α_i は $(\text{inj}_i)^*\xi \rightarrow (\text{inj}_i)^*\xi$ の形の任意の射の組み合わせについて成立する.

以上より, 以下の関手は圏同値である.

$$\begin{array}{ll} \prod_i \mathcal{F}(U_i) & \rightarrow \quad \text{im } \epsilon_{\mathcal{U}} (\subseteq \mathcal{F}(\{U_i \rightarrow V\})) \\ \textbf{Objects:} \quad ((\text{inj}_i)^*\xi)_i & \mapsto (\{(\text{inj}_i)^*\xi\}_i, \{\text{id}_{(\text{inj}_i)^*\xi}\}_{i \neq j} \cup \{\text{id}_{U_{ii}}\}_i) \\ \textbf{Arrows:} \quad (\alpha_i)_i & \mapsto \{\alpha_i\}_i \end{array}$$

$\mathcal{F} :: \text{stack}$ なので主張にある圏同値が示せた. ■

定理 3.7 (Stackification of category fibered by groupoids.)

$\mathbf{C} :: \text{site}$, $\mathcal{F} :: \text{category fibered by groupoids over } \mathbf{C}$ とする. この時, $\bar{\mathcal{F}} :: \text{stack in groupoids over } \mathbf{C}$ と $\theta: \mathcal{F} \rightarrow \bar{\mathcal{F}} :: \text{morphism of fibered category}$ が存在し,

$$(-) \circ \theta: \text{HOM}_{\mathbf{C}}(\bar{\mathcal{F}}, -) \rightarrow \text{HOM}_{\mathbf{C}}(\mathcal{F}, -)$$

が圏同値となる.

例 3.8

presheaf の stackification は sheafification と一致する.

例 3.9

 (arXiv:math/0305243v1, Prop3.6)

$S :: \text{scheme}$, $\mathcal{M} :: \text{algebraic stack over } \mathbf{Sch}/S$, $\mathcal{G} :: \text{sheaf in groups over } \mathbf{Sch}/S$, acting on \mathcal{M} とする. この時, \mathcal{M} の \mathcal{G} による categorical quotient $:: \mathcal{M}/\mathcal{G}$ は, 以下の prestack (2-functor として定義する) $:: \mathcal{P}$ の stackification として定義される.

^{†4} 例えば, Zariski topology より細かい位相ならばこの仮定は成立する.

Objects of $\mathcal{P}(U)$. $\mathcal{M}(U)$ の対象と同じ.

Arrows of $\mathcal{P}(U)$. $g \in \mathcal{G}(T)$ と $\mathcal{M}(U)$ の射 $g * x \rightarrow y$ の組.

ただし $U \in \mathbf{Sch}/S$ は任意.

4 Descent Theory on fpqc Site

4.1 Motivation

(TODO)

4.2 Definition

定義 4.1

関手 $\epsilon_U: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$ を用いて以下のように定義する.

- (i) ϵ_U :: equivalence となる \mathcal{U} を of effective descent for \mathcal{F} と呼ぶ.
- (ii) ϵ_U の像と同型である $\mathcal{F}(\mathcal{U})$ の対象を, effective data という.

4.3 Criterion for fpqc Stacks

補題 4.2 ([2] Lemma 4.25)

S :: scheme, $\mathcal{F} \rightarrow (\mathbf{Sch}/S)$:: fibration とする. 以下が成り立つとする.

- (a) \mathcal{F} は Zariski topology での stack である.
- (b) 任意の flat surjective morphism of affine S -scheme :: $V \rightarrow U$ について,
 $\epsilon_{\{V \rightarrow U\}}: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\{V \rightarrow U\})$ は圏同値.

この時, \mathcal{F} は fpqc topology での stack である.

証明のために段階を踏む.

4.3.1 Step 1 / \mathcal{F} :: fpqc prestack.

4.3.2 Step 2 / single morphism cover の場合に帰着させる.

4.3.3 Step 3 / affine scheme への quasi-compact morphism の場合.

4.3.4 Step 4 / affine scheme への flat surjective morphism の場合.

4.3.5 Step 5 / 一般の場合.

参考文献

- [1] Notes on grothendieck topologies, fibered categories and descent theory (version of october 2, 2008).
- [2] Martin Olsson. *Algebraic Spaces and Stacks (American Mathematical Society Colloquium Publications)*. Amer Mathematical Society, 4 2016.